

平成30年度「東京都環境影響評価審議会」環境影響評価制度検討特別部会（第4回）議事録

■日時 平成30年10月5日（金）午後3時30分～午後3時45分

■場所 都庁第二本庁舎31階 特別会議室21

■出席委員

柳特別部会長、町田委員、平手委員、奥委員、藤倉委員

■議事内容

審議

東京都環境影響評価制度の見直しについて 答申（案）」について

⇒ 「「東京都環境評価制度の見直しについて 中間のまとめ」への意見の内容と意見に対する東京都環境影響評価審議会の考え方」及び「東京都環境影響評価制度の見直しについて 答申（案）」について審議を行った結果、全会一致で総会へ報告することとした。

平成 30 年度「東京都環境影響評価審議会」

環境影響評価制度検討特別部会（第 4 回）

速 記 録

平成 30 年 10 月 5 日（金）

都庁第二本庁舎 31 階 特別会議室 21

(午後 3 時 30 分開会)

○真田アセスメント担当課長 それでは、ちょっと時間が早いんですけども、始めさせていただきます。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、御出席いただき誠にありがとうございます。
事務局から御報告申し上げます。

現在、環境影響評価制度検討特別部会委員 5 名のうち、5 名の御出席をいただいております、定足数を満たしてございます。

それでは、特別部会の開催をお願いいたします。

なお、本日、傍聴の申し出がございますので、よろしくをお願いいたします。

○柳部会長 それでは、会議に入ります前に、本日は傍聴を希望する方がおられますので、東京都環境影響評価審議会の運営に関する要綱第 6 条の規定によりまして、傍聴人の数を会場の都合から 30 名程度といたしたいと思います。

では、傍聴人を入場させてください。

(傍聴人入場)

○柳部会長 傍聴の方は、会議の途中で退席されても構いません。

それでは、ただいまから特別部会を開催いたします。

本日は、お手元の会議次第にありますように、「東京都環境影響評価制度の見直しについて 答申（案）」と「その他」となっております。

それでは、「東京都環境影響評価制度の見直しについて 答申（案）」の審議を行いたいと思います。

初めに、資料 1「東京都環境影響評価制度の見直し 中間のまとめへの意見募集の結果について」ですが、前回の特別部会での審議を踏まえ、都民から意見に対する審議会の考え方の記載内容を何か所か修正しておりますので、改めて御確認いただきたいと思います。

それでは、修正点について事務局から説明をお願いいたします。

○松岡アセスメント条例担当課長 それでは、前回の特別部会で委員の方々からいただいた御意見に対して丁寧に答えていない点があるとか、あるいはもう少し具体的に答える形のほうが分かりやすいといった御指摘をいただいております、これらを踏まえまして主な修正点について御説明いたします。

まず、資料 1[別紙]の一番上の段の、3 つ御意見があつてそれをまとめたものになってございますが、この中で、道路構造物の安全や施設の保全のために行う防護柵、遮音壁、床版等

が「橋、桁等」の「等」に含まれないことを明確にされたいといった御意見がありまして、これに対する審議会の考え方におきまして、委員からは、前回の資料では「橋脚、桁等」の「等」が何であるかについて答えていないという御指摘がございました。中間のまとめの本文では、高架、橋梁等の道路又は鉄道等の更新の考え方について、橋脚、桁等の除却を伴う更新をする場合、対象事業とすることが適当であるとしていた箇所を、答申（案）の本文では、橋脚、橋台又は桁の除却を伴う更新をする場合、対象事業とすることが適当であると改めてございます。

このことを、資料 1[別紙]の記載においても明らかとするために、審議会の考え方（案）の欄 2 パラグラフ目でございますけれども、中間のまとめで示した、高架、橋梁等の道路又は鉄道等の更新の考え方について、これに続く部分で前回の資料では、より明確にした記述に修正しますとしていた箇所を、より範囲を明確にするため、「橋脚、桁等」を「橋脚、橋台又は桁」に修正しますと記載を改めました。

また、委員から、Q & Aを示すのであれば踏み込んで書いてもいいのではないかという御指摘がございました。同じ欄の 3 パラグラフ目で、前回の資料では、更新に含まれないものの範囲について代表的なものなど具体的に示す必要があると、このように記載していたものでございますが、代表的なものを例えば質疑応答集などで具体的に示すと修正いたしまして、代表的なものをどのような形で示すのかということを示してございます。

この今のところの御意見以外でも同様の記載をしていた箇所が資料 1[別紙]には複数ありまして、それぞれ例えば質疑応答集などでという形で文言を加えさせていただいてございます。

続きまして、この同じ資料 1[別紙]の 1 ページの一番下の御意見に対する部分でございますが、御意見では敷地内に複数棟の施設を有する工場において、1 棟解体した後の空き地に施設を設置する場合、増設等又は更新等のどちらに該当するのかという御意見をいただきまして、それに対する審議会の考え方におきまして、委員から前回の資料では明確に答えてはいないという御指摘がございました。

そこで、1 パラグラフ目を追加いたしまして、読み上げさせていただきますと、「御意見の「工場において 1 棟を解体した後、解体後の空き地に施設を設置する場合」について、解体と設置を一体で行わない場合は増設の要件に該当します。一方、一体で行う場合は、除却する施設の建築面積と除去後に設置する施設の建築面積によって増設又は更新の要件に該当します。」とさせていただきました。

それでは、続きまして2ページをご覧ください。

この2段目の御意見に対する部分でございます。

新設等とそれから更新等との間に手続を進める上で違いがあるかという御意見ですが、これに対する審議会の考え方におきまして、委員から前回の資料では明確に答えていないという御指摘がございました。そこで、新設等と更新等の手続を進める上での違いは、更新等については必ず解体があるため解体工事を含めて環境影響評価を行うが、これ以外の点では違いがないということで、違いがないことを明確にしております。

それから、続きまして同じ2ページの4つ目、4段目の御意見に対する部分でございます。これに対して、「過去のアセス対象であった事業については、複数の新築事業をまとめた規模で対象案件とみなすものなど、事業者、施設が法的な取扱いと整合しない場合があると思われる。このような場合の取扱い等についても、整理をする必要がある」という御意見がありまして、これに対する考え方におきまして、前回の資料では、どの対象事業に該当するのか、その規模要件に該当するかの判断は新たな計画に対して行うものであり、過去の対象事業の規模に対するものではないというふうに記載していたところです。この記載につきまして委員から、改正条例の施行日以降に提出されるどのような事業がアセス対象になるか、これをもう少し丁寧に説明すべきであるという御指摘がございました。そこで、記載のとおり、「過去に環境影響評価手続が行われ、その場所で新たな事業計画がある場合、過去に行った環境影響評価手続の規模にかかわらず、条例及び施行規則の適用時における事業計画を踏まえて、対象規模を判断することになります。」と、より丁寧な表現となるよう全体を見直しました。

続きまして、飛びまして5ページをご覧ください。

5ページの4その他の部分の1つ目、1段目の部分でございます。

御意見としては、改正条例が適用されない事業の推進状況の条件をできる限り早期に公表していただきたいという御意見がございまして、これに対する審議会の考え方におきまして、委員からより丁寧に答えるべきという御指摘がございました。そこで、施行時期や経過措置の目安となる例を示すことといたしまして、2パラグラフ目に、「例えば、条例附則において、施行までに一定の期間を置くとともに、規則で定める評価書案の提出時期を経過している事業については適用しないなどの経過措置を置くことが考えられます。」という旨を追記しております。

資料 1[別紙]の前回からの修正点につきましての説明は以上のとおりでございまして、な

お、資料2の答申（案）につきましては修正点がございましたので、答申（案）は前回お配りしたものと同じでございます。

以上で資料1の説明を終わります。

○柳部会長 ありがとうございます。

それでは、ただいま説明のあった資料1について、何か御質問等がございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

藤倉委員、何かございますか。よろしいですか。

○藤倉委員 基本的に結構なんですけれども、答申（案）が前回とは変わらないという話なんですけど、要するに、パブコメ前とパブコメを経た後でどこが変わったかは、そんなに箇所が多くないはずなんで、ちょっと御紹介いただいたほうが分かりやすいかなと思うんですけど。

○松岡アセスメント条例担当課長 分かりました。

まず、答申（案）で見ますと、3ページ目になります。

3ページ目の、上から4行目でございますけど、中間のまとめでは、高架、橋梁等の道路又は鉄道等について橋脚、桁等の除却を伴う更新をする場合となっていたんでございますが、この部分につきましては、先ほどのパブリックコメントに対する意見を踏まえて、「高架又は橋梁の道路又は鉄道等について、橋脚、橋台又は桁の除却を伴う更新をする場合」というふうに、「等」の部分をやめて限定的な記載をしているものでございます。

それからもう1つは、4ページ、5ページ共通しているものでございますけれども、5ページで見ていただいたほうが分かりやすいかと思いますが、大きな四角囲みの中に①から④まで変更届が不要となる場合の要件を記載しているところでございますが、①の中に、中間のまとめでは、「当該基本的な諸元の増加が10%未満である変更」とだけ書いていました。これもパブリックコメントに対する御意見を踏まえまして、「10%未満である変更若しくは減少がある変更」としており、「増加が10%未満」の中にもともと含んでいると考えていたところでございますけども、改めて明記させていただいて、基本的な諸元の減少がある変更ということも追加させていただいているところでございます。

以上が、答申（案）と中間のまとめの違う部分でございます。

○柳部会長 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、特に発言がないようですので、この東京都環境影響評価審議会から本特別部会

に付託されておりました東京都環境影響評価制度の見直しについては、委員の皆様の御承認をいただいたということで、この答申（案）を審議会総会に報告したいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（異議なし）

ありがとうございます。

それでは、皆様に御承認いただきましたこの内容に従って、審議会に私から報告させていただきたいと思います。

本日予定しておりました審議は全て終了いたしました。ほかに何かございますでしょうか。

特にないようですので、これで特別部会を終了させていただきます。

皆様どうもありがとうございました。

それでは、傍聴人の方は退場をお願いいたします。

（傍聴人退場）

（午後 3 時 45 分閉会）